

6月20日(日) 暮らしネット・えん

第19回定例総会開催しました

～初めてえんの総会に参加して～

去年の7月に入職して一年近く、初めて総会に参加しました。

まどかで働き感じたことの一つに、ミーティングの多さと質の高さがあります。月2回開かれるミーティングでは状態が常に変わっていく利用者さんのことを主に話していますが、それ以外に業



務や研修、地域、そしてコロナ禍での利用者対応など、より良くしていこうという姿勢が強く見られました。特にコロナ禍での利用者対応には四苦八苦していました。利用者やご家族に熱があった時えんとしてどうするか、まどかとしてどうするなどを話し合い、とても勉強になりました。

そんな話し合いや苦勞の集大成がこの総会議案書だと思いました。総会自体はコロナの影響や時間の関係で粛々と行われましたが、その中でも強く思ったのが地域の人に支えられているということです。それは議案書の中にどの事業所も必ず地域についての記述があり、コロナ禍でのアルコールやマスクなどの寄付、そして寄付金などの形に表れています。地域の皆さんとボランティアの方々には感謝しかありません。私も地域に還元できるように地域交流事業や文化事業などに参加していきたいです。

今回は参加者もいつもより少なかったようですが、にぎやかな総会に参加できることを楽しみにしています。
(多機能ホームまどか／高岡岳人)



～ 第 19 回総会終了しました ～

イラスト／田島薫

6月20日、中央公民館体育室で、第19回の定例総会を開催しました。昨年は出席者をギリギリに絞り、グループリビングえんの森リビングルームで開きましたから、2年ぶりの中央公民館です。例年に比べれば少ない参加者ですが、最小限に絞った昨年度に比べればにぎやかな総会になりました。

今回の議案書は96ページ、昨年より8ページ増えました。各事業がこの未曾有の1年間をどのように対策をして過ごしたか、利用者さん、スタッフの思いを含めてしっかり記録した結果です。会場の都合もあり、いつもより30分短い時間で終了しなければならなかったのが残念でした。

◆2020年度報告◆

まず、決算は4年ぶりの赤字になり、約174万円のマイナスでしたが、デイホームえんと多機能ホームまどかが感染防止のために1日の利用者数を絞らなければならなかったことが大きく、コロナ禍の影響だったことが確実です。またケアプランえんは、要介護認定を受けケアマネジャーを決めてプランを立ててもサービス利用を見合わせる方が例年になく多く、報酬につながりませんでした。感染拡大の中ヘルパーが来ることやデイサービスなどに行くことをためらったのでしょうか、サービス利用が必要な方々ですから、その後どうされているのか心配です。一方えんの食卓は前年度末から利用者が一気に増え、前年比25%の増、買い物に行くのも不安な中で一食のお弁当が生活の支えになったようです。

また多くの方からご寄付を頂きました。この収入があったおかげで年度内に法人負担のPCR検査を行うことができました。また赤字幅を少なくすることができました。あらためて御礼申し上げます。

いろいろあった1年でしたが、えんのスタッフに一人も感染者が出なかったことが最大の成果でした。

◆2021年度計画◆

いまだにコロナ禍中ですが、2021年度の計画もけっこう盛だくさんです。

まず、20年度にスタートした基幹相談支援のための事務所新築。実はこれを書いている時点で着工していたはずが世界的なウッドショックとやらで、建築資材が高騰し見積直しに入っています。いずれにしろ年度内には完成予定です。えんはどちらかというと、高齢者介護で知られていますが、障がい者支援はボランティア時代から始めています。新座市から委託された『基幹相談支援センターえん』は新座市の障がい者支援の中核に位置付けられるセンターです。お披露目も兼ねたイベントを行い、皆さんにも知っていただきたいのですが、この状況で見合わせています。

また、認知症カフェ、誰でも食堂、みんなのコンサートなど、どれもが「収束後」に再開する予定ですが、2020年度スタート予定でいまだに始められないのが「若年認知症カフェ」。すでに法人内では始めていましたが、昨年からは新座市の認知症支援事業として開始の予定でした。

さまざまなことが、「コロナが終わったら」になりますが、その日が来たら早速活

動開始できるよう、準備を怠らずに備えようと思います。

そして、この通信をご覧くださっている方々はえんが様々なことを行っているのをご存知でしょうが、一歩地域に出ると案外知られていないのです。「高齢になっても(認知症になっても)、障がいがあっても、この街で暮らし続けるために」を掲げて、一つひとつ多くの方の力を借りながら、この地域で暮らし続けるためにひつような介護サービスなどを作ってきました。何を目指して活動してきたか、しっかり伝えていくこともまた今年度の目標です。まずは近々にボランティアから30年間の活動を振り返り、これからをみんなで考えた小さな冊子が完成予定です。

コロナ禍が収束し無事にこの年度の計画を実行できることを願うばかりです。

(代表理事/小島美里)



～ えん総会、初参加 ～

イラスト/田島薫

「えん」の仲間に入れていただき丸1年。初めての総会。出席する前からなんだかワクワクしていました。まず「総会議案書」にビックリ！気持ちはまだ新人、しかもパート職員の私が、事業報告、事業計画作成の一部に加えて頂いたのですから驚きです。

そして、総会資料に目を通すと、えん全体の移り変わる春夏秋冬を体験できる様な1年間の出来事が記録されていました。更に、コロナ禍で誰もが不安を抱えている中、「今できる事をやる!」、大切な人を守る為に実行、実践した事や情報を発信していた事などが記録されていたのです。

私、決して会議が好きなわけでは無いのですが、ここままで、どんな総会が開かれるのか見てみたい、との興味で溢れていました。

いよいよその日、いつもと違う装いの知った顔の皆さん。参加者49名。

小島代表からは、コロナ禍で対策・経営に厳しい環境下での1年だったことが伝わってきました。でも、えんの事業所内だけでなく、えんを取り巻く人々との交流があること、それも誰もが大変な時期に力強い応援があったエピソードに心が和みました。「えん」は支えるだけでなく支えられてる、お互い様の関係が築かれていることを感じたのです。

また、各担当の方からも高齢者、障がい者、地域の方々を支えるプロとして、事業計画の提案では決意表明とも取れる発言に、優しさと責任感を感じることができました。小島代表はじめスタッフの皆が地域に意識があること、そして「そこに暮らす人のために」の思いがあることが伝わって来るのです。手間暇掛けた「えん」のスタッフ全員+ボランティアの皆様で作りに上げている総会、96ページにも及ぶ総会資料以上に厚い、熱い思いは変わらず持続される事が、「えん」ならではの総会と実感しました。

これからも色々な事に興味を持ちながら、地域で暮らす一人として、自然豊かな「えん」の庭で2年目を迎えました。

(ケアプランえん相談支援/菊池とみえ)



ケアプランえん

5月からコロナ・ワクチン接種の予約が開始された。開始当初はコールセンターの電話は繋がらない、かかりつけ医の対応もいろいろで、自分では予約手続きができない利用者の方々の予約をどのように確保すればよいか、ケアマネもまごまごすることが多かった。その内、集団接種も始まり、利用者の状況に合わせた予約が可能になり、ホッと一安心。独居や高齢者夫婦で他に家族の支援が見込めない場合はケアマネが対応せざるを得ず、予約、接種共、一人一人の状況に合わせた支援が必要となる。ケアプランえんの場合、ネット・電話予約支援は14人、ケアマネジャー同行接種支援は5人、ヘルパー同行接種支援は7人の方々に対応した。

ヘルパー同行での接種は介護保険を利用可能だが、ケアマネの場合は業務外であり、「ボランティア」で支援を行うことになる。精神に障がいを持つ利用者の予約をしたものの、当日本人が不安になり、連絡が取れなくなって安否確認に半日要し、結局キャンセルした方。予約支援の上、会場に同行したが、接種券を紛失して再発行にケアマネが走り回り、何とか接種にこぎつけた方等々、施設とは違って在宅ならではの様々な状況に対応が必要になる。

ワクチン接種を希望する方は、誰もが等しく安心して接種できる権利と環境が必要であるはずだが、このコロナ感染禍という非常時に、ケアマネジャーの「善意」に任せることでいいのだろうか？そこで、暮らしネット・えんが発起人となって呼びかけ、6月22日、8事業所連名で新座市に下記内容の要望書を提出した。7月末現在、新座市からの返事はまだない。隣の朝霞市はいちはやく対応したので、新座市もぜひとも支給していただきたい。

1. 介護支援専門員に、要支援・要介護高齢者のワクチン接種予約支援と同行支援に対する謝金を支給して下さい。
2. 相談支援専門員に、障がい者のワクチン接種予約支援と同行支援に対する謝金を支給して下さい。

(ケアプランえん/加藤真弓)

グループホームえん

昨年度末の2月末、突如市役所から「入居者が施設でワクチン接種する時に職員も一緒に打てます。接種予定者名簿を作って3月初めに提出を」とのメール。市役所の担当者に電話をすると、先方もどたばたの様子。どたばたと名簿を作って提出。



そして入居者宛に接種券が届いたのは5月。そこから、どこで打つのかかかりつけ医と相談、往診で打ってもらえる方、外来を受診しなければならない方、さらには体調不安から主治医が接種は見送るという方、9人への対応がそれぞれ違い、ご家族にも説明。「具体的にはいつになるか未定です」と言われていたのに、これまた突如「今週の往診で打ちます」。

ではその施設入居者の接種が決まったから即スタッフも打てるかということ、これがなかなか進まず「接種券が届かないと打てません」。先が見通せないこの時期は、堀ノ内病院訪問診療の事務スタッフが窓口になって下さり、たいへん助けられた。

6月初め、市役所の配布物を取りに行くと、その上にどさりと問診票の束。よく見ると各スタッフの氏名が。堀ノ内病院に「まだ接種券は届いてませんが、名前入りの問診票が来ました」と伝えると「あ、じゃあいつにしますか?」、え?!「接種券来てないんですけど…」、「いえ大丈夫です。」これまた突如始まったワクチン接種。そして、これを書いている7月半ば。2回目の接種で高熱を出してダウンのスタッフが続出。陳腐な言葉だが「ワクチン狂騒曲」としか言いようがない、すったもんだのどたばたの4カ月半だった。

(グループホームえん／井上暁子)

ケアサポートえん

5月10日から高齢者コロナワクチンの予約受付が始まりました。電話をかけても何時間も繋がらない、ネットでは予約が取れないなど、高齢の利用者から不安の訴えが聞かれました。自分で予約ができない方も多く、ご家族、高齢者相談支援センター、ケアマネジャーが代行して予約を取り、ヘルパーも相談を受けて連絡等であわただしくなっていました。いざ予約が取れても、どうやって行くのかがまた問題です。行ったこともない病院で予約が取れても一人では行けない方もいます。ケアマネジャーや本人からワクチンの接種での付き添いや移送サービスの依頼が増え、ケアサポでも日々対応に追われていきました。



イラスト／田島薫

副反応の心配で不安定になる利用者のお話を一番身近なところでヘルパーは聞いています。ある精神障がいのある利用者さんは、主治医や周りから勧められ嫌と言えず、精神的に混乱し当日にキャンセルすることにしました。この方だけでなく、日常生活のリズムまで乱れてしまった方もいます。

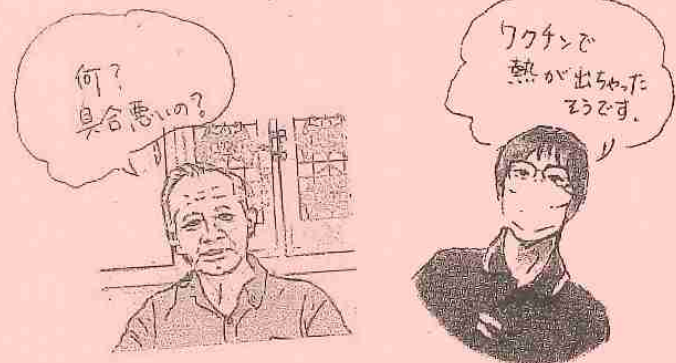
接種後の副反応の対応にも追われています。高熱、嘔吐、体調が悪くなった場合は、ケアマネジャーや家族に連絡し、医療につなげ様子を見ています。ケア内容の変更や時間の変更、コロナワクチン接種の為に柔軟な対応が求められながら、今日も、車、バイク、自転車でヘルパーたちは猛暑の中市内を走り回っています。

(ケアサポートえん／川口敏子)

多機能ホームまどか

「私、熱があるみたい」。Hさんの妻から電話があったのは17:50。利用者さんのコロナワクチン接種について体調が悪くなることも想定していたけど、家族！？しまった、甘かった…。今日は夜勤者がいないし、訪問でご飯を食べてもらって、就寝前のケアをすれば乗り切れるか？夜間は宿直対応で何とかしよう。

急なケアに若手のスタッフ2名が「自分行きます」と手を挙げてくれ、明るい未来を見ることができました。21時過ぎまで滞在し、まどかでは稀な長時間型の訪問でした。



(多機能ホームまどか／中本嘉子)

デイホームえん

今年の七夕の短冊は「みんなが笑顔で過ごせますように」、「宝くじがあたりますように」に混じって、「マスクがはずせますように」。

利用者さんは、若年認知症の方をのぞいた全員が2回接種を終えました。99才のAさんもお変わりなく元気に来所されています。スタッフも全員終わりましたが、若いスタッフは翌日に39℃の高熱が出て倦怠感が続くといった症状に苦しんだ一方、なんともなかった人もいて、いろいろです。



(デイホームえん／吉村桂子)

丸山久恵さん 100年インタビュー ①

～100歳のお誕生日を心から祝して～

●故郷のこと

- ・大正10年（1921年）2月24日生まれ。長野県下伊那郡大島村堤原出身。10軒くらいの小さい村で山に囲まれた盆地でねえ。東側がアカシ山、西側は西山と呼んでたよ。西山は姥捨て山で、昔寝たきりになったお年寄りをかついで山に置いてきたって父親が話してた。
- ・（私が生まれた日は）晴れた日だったって父親が言ってたよ。私が何かするっていうと、そう、遠足とかね、晴れるんですよ。

●家族について

- ・父親の名前は関 陽子帳（ようすちょう、享年89歳）。母親はヤス（享年92歳）。私は8人きょうだいの3番目。たった一人の兄は消防団に入ってたけど、消防車にはみ出して乗ってて横に倒れて下敷きになってねえ、30歳で亡くなったんですよ。一番下の妹二人が今も元気ですよ。父親は口やかましく厳しかったけど母親はやさしい人で怒ったことなんてなかったねえ。

●子供時代

- ・朝起きると部屋と中庭の掃除や雑巾がけ、鶏を飼っていたから卵を取りに行ったり、母親を助けようと言うことをよく聞く親孝行な子供だったよ。
- ・食事は麦ごはんと煮物くらいかねえ。お米なんてめったに食べられたもんじゃなかったし。釣り好きの父親が近くの天竜川で小魚を釣ってきて食べたりしたよ。野菜や麦、そばを果樹園の下で作ってたから。井戸があって、台所は土間で、囲炉裏で火をおこして土瓶でお湯をわかしてね、魚や母が作ってくれたあんこの入った「そばやき餅」を焼いて食べたもんで、おいしかったですよ。
- ・天竜川はあばれ川でね、渡し舟で向こう岸まで渡ってたけど、舟が転覆して人が亡くなることもあったねえ。収穫した果物は鉄索（ケーブルに吊るした籠に荷物を積んで、川の上空を行き来させるもの）で運んでいて、子供の頃はずうっと飽きることなく眺めてたもんだよ。
- ・女の子はお手玉とかゴムまりつきを歌いながら遊んでたねえ。夏は小さい川で泳いで、冬は雪が10センチくらい積ってゲタでは歩けないから靴を買ってもらってうれしかったよ。

（聞き書き／長谷川洋子・西崎麻子）



鉄索イラスト／馬場敏美



グループリビングえんの森入居者募集中！

高齢になっても、障がいがあっても、自分らしく住み慣れた地域で心豊かに暮らせる新たな住まいです。

バリアフリーの住まい、大きな浴室、栄養豊かなあたたかい食事、同じ屋根の下に暮らして声をかけ合える仲間。高齢期を迎えて一人暮らしが不安になる条件をクリアし、できる範囲での役割分担を受けもちながら地域住民として暮らします。いきいきと毎日の生活を楽しむ、「自宅に暮らす」日々をつくりあう住まいです。



お気軽に問合せください TEL 048-480-4150

◆ 今後の地域交流事業について ◆

認知症カフェ、だれでも食堂にいざはお休みさせていただきます。再開が決まりましたらお知らせいたします。

◆ 認知症電話相談のお知らせ ◆

毎月第3水曜日 10時から16時まで

認知症に関する知識や、受けられる介護サービス等の情報提供、悩みごと、認知症のある方に対する介護のコツや症状を踏まえた生活の工夫等々、お気軽にお電話ください。

TEL 048-480-4150

～ 職員大募集！！ ～

離職率が低いと評判の暮らしネット・えんで一緒に働いてみませんか？ヘルパー(訪問介護職員)・介護職員・送迎運転担当者募集しています。資格がない方も資格取得のお手伝いをいたしますので、ご相談ください。

地域で暮らし続けていくために 2021年度新規・継続会員募集中！

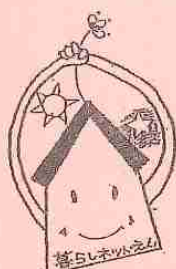
正会員：1000円 賛助会員：3000円

※入会を希望される方は、事務局までご連絡ください。

郵便振替(00180-5-314344)



イラスト/田島薫



■ 編集・発行 認定NPO法人暮らしネット・えん

〒352-0033 埼玉県新座市石神2-1-4

電話:048-480-4150 FAX:048-201-1311

Eメール:npoenn@jcom.home.ne.jp

ホームページ:https://npoenn.com/